

4番(川上晋平)登壇 私は自由民主党福岡市議団を代表して、市街化調整区域のまちづくりについて、小学校における生徒指導上の課題と心のケアについて、以上2点について質問いたします。

まず初めに、市街化調整区域のまちづくりについて質問します。

本市の都心部や住宅地区である市街化区域においては、都市機能や商業施設などの集積も進み、おおむね活気にあふれ、住みやすいまち並みとなっています。しかしながら、一部の市街化調整区域は、集落が存在し、現に人々の生活の営みがあるにもかかわらず、建物の建設に対する強い規制から集落が衰退し、過疎化、高齢化の危機にさらされている地域があります。私の地元である東区の志賀島を例にとり、市街化調整区域のまちづくりについて質問をさせていただきます。

志賀島は、後漢の光武帝から授かった金印が発見され、全国の歴史の教科書にも載っている由緒ある島です。また、渡来してきた海人、安曇族の根拠地であり、この安曇族が日本各地に入植して安曇野を初めとする安曇族ゆかりの地ができたこととされています。まさに志賀島は、古来から国際交流都市福岡を象徴するこのまちの歴史の顔とも言える場所です。また、自然にも恵まれ、特に西戸崎から志賀島に細く伸びる砂州は、約1キロにわたって両岸が砂浜という特異な景観を形成しており、歴史と自然の島志賀島にふさわしい表玄関となっています。

志賀島は、かつては農漁業も盛んで、昭和46年の合併当時には人口も3,000人以上あり、夏には子どもたちが元気に海で遊ぶ、まさに活気あふれる地域でした。しかし、今やその人口は3分の2に減少し、ここ10年間だけでも15%の減少率です。また、高齢化率も30%余りと、市内の平均15.9%を大きく上回る状況にあります。ことしの小学校の入学者は、勝馬小学校が7人、志賀小学校が4人、島を駆けめぐっていた元気な子どもたちの声も少なくなり、火が消えたように静かな地域になりつつあります。志賀島は、多くの部分が自然公園区域や農用地域に指定されていることもあり、志賀、弘、勝馬などの集落部分も含め、全地区にわたって市街化調整区域となっています。志賀島は市街化調整区域内であるがゆえに、新たに住みたいという人がいても新しい家や賃貸住宅は建てられないのだと聞いています。志賀島の衰退の原因の1つは、この市街化調整区域という規制にあるのではないかと考えています。

そこで質問ですが、市街化調整区域とはどのようなものなのか、その背景、目的と規制の内容についてお尋ねいたします。

人口が減少すると、生活に不可欠な民間の施設がなくなっていきます。その1つが医療機関です。志賀島では平成17年の12月から唯一の診療所が廃院しており、医療機関が約1年半も地域にない状況にあります。住民はバスで二、三十分かかる西戸崎の病院を利用せざるを得ず、外科に至ってはバスで四、五十分もかかる奈多、和白まで行かなければなりません。足の不自由な高齢者が、毎日10キロ以上も離れた遠くの病院に通院する姿を想像してみてください。

そこで質問ですが、本市の僻地等に対する医療体制の現状はどうなっているのか、お尋ねいたします。

また、志賀島の主要な道路は、島を一周する周回道路です。この西側半分、志賀から勝馬までに島内の唯一の公共交通機関であるバスが走っています。車の運転ができない高齢者や障がい者はこのバスを利用せざるを得ないのです。高齢者や障がい者が安心して自由に社会参加できる、人に優しいまちづくりが必要と思いますが、道路管理者の取り組み状況をお尋ねいたします。

人口減少と高齢化の著しい志賀島を活性化していくためには、地域の基幹産業である観光や農漁業を振興していく必要があります。しかし、観光産業は、国民宿舎がなくなったことで大きな影響を受け、さらに福岡西方沖地震の直後には、震災の影響で観光客がほとんどいなくなるという深刻な状況に陥りました。現在では、崩落により通行どめだった周回道路も復旧し、徐々に志賀島を訪れる観光客が増加してはきたものの、依然厳しい状況にあることに変わりはありません。農業、漁業も厳しい状況にあり、農業の収入は他産業に比べて低く、高齢化が進み後継者不足に悩んでいます。また、漁業においても、同じく就業者の高齢化や後継者不足が深刻であり、重ねて燃油高騰や赤潮、白潮の発生もあって、ますます深刻な経営状況にあります。

そこで質問ですが、志賀島の農漁業及び観光業の現状はどのようになっているのか、また、それに対してどのような対策を講じているのか、お尋ねします。

先ほどお触れしましたが、西戸崎から志賀島の玄関口である砂州、通称道切りと呼ばれる場所は、海の中の一本道で、西戸崎から向かうと、前方に緑豊かな志賀島、右に玄界灘、左に博多湾と都心の風景を望むことのできるすばらしいドライブコースであり、志賀島の観光の宝とも言える景観です。しかし、残念ながら砂州の中央を走る道路の両側に電柱が立ち並んでおり、せっかくの景観に水を差す結果となっています。

そこで質問ですが、本市における電線地中化事業はどのように進められており、どのように取り組もうとしているのか、お尋ねいたします。

次に、小学校における生徒指導上の課題と心のケアについてお尋ねします。

御承知のとおり、近年、子どもたちを取り巻く環境が大きく変化しており、非行、いじめ、不登校などさまざまな教育課題が顕在化してきております。私は子どもたちの健やかな成長のためには、家庭、学校、地域がお互いに連携して、子どもたちにとってよりよい環境づくりを進めていくことが重要であると考えています。言うまでもありませんが、子どもたちの健やかな成長にとって一日の大半を過ごす学校生活が教師との信頼関係のもとで安定した確かなものになっていることは極めて重要です。しかし、残念ながら、近年、福岡市においても学級運営が混乱し、生徒指導上の対応に大変苦勞している学校がふえていると聞いております。

そこで質問ですが、中学校では、こうした特に生徒指導上の問題がある場合に対応するため、授業を担当せず、専ら生徒指導に従事する教員が配置され、大きな効果を上げていると聞いておりますが、この生活補導主事の役割並びに配置の考え方はどうなっているのか、お尋ねします。

以上で1問目を終わり、2問目からは自席にて質問いたします。

4番(川上晋平) まず、市街化調整区域のまちづくりについてお尋ねします。

市街化調整区域である志賀島において新たな建物が建てられないのであれば、志賀島の自然や景観にあこがれて新たに家を建てたいと思う人も移り住むことができません。また、賃貸の住宅もないので、農漁業者の子どもたちが結婚して家を借りて地域に住み続けたいと思っても出ていかざるを得ない状況です。市街化調整区域であっても、集落に人が住んでいる限り一定程度の適切な建築は必要ですし、診療所の廃院など生活に不可欠な民間施設の閉鎖は島の人口の減少に起因しています。また、志賀島は単なる農漁村地域ではなく、観光業にも大きく依存している地域であり、その面からも、農業、漁業と共存する形で新たなまちづくりも必要だと思います。

そこで質問ですが、市街化調整区域におけるまちづくりについての考え方や、それを可能とする手法についてお尋ねいたします。

次に、志賀島の医療機関の件ですが、島内に唯一の診療所がなくなって、高齢者は本当に困っています。志賀島の人口は約2,200人で、うち670人余りが65歳以上の高齢者です。車の運転ができない人もいるでしょうし、年齢から考えて足の不自由な方も多いことでしょう。このまま医療サービスから見放されたままに放置してよいはずはありません。行

政の責任において何とかするべきではないでしょうか。

そこで質問ですが、高齢者に優しいまちづくりという観点からも、志賀島も僻地に準じた地区として、市が診療所を設置するべきと考えますが、お考えをお尋ねいたします。

また、病院への通院には公共交通機関であるバスを利用する高齢者が多いのですが、志賀島や西戸崎のバス停にはバス待ち時間を過ごすベンチもありません。若い方なら何ともしないでしょうが、足の不自由な高齢者にとってはとてもつらいことです。区役所や老人福祉センターに行くにもバスは必ず必要です。御高齢の方が地面に座り込んでバスを待っている姿を見かけたりすると心が痛みます。

そこで質問ですが、バス停のベンチの設置についての当局の考え方を教えてください。

次に、観光業についてはプロモーション活動に努められているとのことですが、志賀島のよさを広く知ってもらいために、もっと工夫を重ねることが必要です。冒頭にも申し上げたように、志賀島は歴史と自然の島です。古来からの歴史物語にロマンを感じる人も多いでしょうし、また、子どもたちが日本の古代史を学ぶという観点からも、志賀島の価値は高いのではないかと思います。金印公園や潮見公園などを再整備し活用することにより、小学校の社会科見学や他県からの修学旅行で訪れてもらうこともできるのではないかと考えています。また、農漁業については、農漁業が衰退すれば島の活力が失われるばかりではなく、漁師町の風情や緑豊かな田畑など島の景観も損なわれることになりま

す。さらに志賀島の貴重な魅力となるべき甘夏やイチゴ、ヒワなどの農産物やワカメ、サザエ、アジなどの水産物を失うことは、志賀島だけでなく、福岡市にとっても大きな損失だと思います。若い人に魅力とやりがいのある農漁業とすることが必要です。

そこで質問ですが、今後、志賀島の観光業、農業、漁業の振興のため、どのように取り組んでいかれるのか、お尋ね

いたします。

道路としての機能の観点に立って、志賀島の玄関口である道切りを見ると、これが志賀島と外部をつなぐ唯一の道路であります。地震や台風等の自然災害時に両サイドにある電柱が倒壊すれば道路が遮断され、緊急時における人命救助活動、消火活動、食料等の物資輸送などは、海上と空路からだけとなります。阪神大震災のときも被害が拡大した一因は、電柱が倒れたために人命救助活動や消火活動がおくれたことと聞いております。災害時に志賀島の唯一の陸路の安全性を確保するという防災上の観点からも、電線地中化はぜひとも必要と思います。

そこで質問ですが、地中化を実施するに当たって、どのように取り組む考えなのか、お尋ねいたします。

次に、小学校における生徒指導上の課題と心のケアについてお伺いします。

先ほど中学校に配置されている生活指導主事についてお伺いしましたが、近年は中学校だけでなく、小学校でも学級運営が混乱し、特に生徒指導上の配慮を必要とする場合が出てきていると聞いております。小学校も高学年になれば、中学校と同様に子どもたちは心身のバランスを崩しやすくなり不安定な時期に入っていきます。今日、インターネットの普及により子どもが有害な情報に触れる機会の増大を初め、社会の急速な変化の中で、いや応なしに子どもたちは大きな影響を受けており、いじめ、非行、不登校など、さまざまな問題発生が低年齢化も進んでおります。

そこで質問ですが、小学校において学級運営の混乱など、特に生徒指導上の対応が必要になった場合、現状ではどのような対応がなされているのか。また、小学校には中学校の生活指導主事のような、授業を担当せず、児童に向き合い、生徒指導に専念できる教員を配置できないのか、お尋ねいたします。

以上で2問目を終わります。

4番（川上晋平） 3問目は市長に対して質問させていただこうと思います。

着実に人口が増加し、都市機能の集積が進むこの福岡市にあって、志賀島の集落に代表される市街化調整区域の過疎化、高齢化の問題が存在していることを市長もよく御認識いただきたいと思います。高齢化率が25%以上の小学校校区は全市に12校区ありますが、そのうち9校区は全校区または校区の大半が市街化調整区域の校区です。いかに市街化調整区域を中心にして高齢化が進んでいるかがわかります。また、この9校区では、人口の減少も著しく、ここ10年間でどの校区も10%前後の人口が減少しています。そして、市街化調整区域のこのような現状は、日本全国の農業集落、漁業集落で見られるようです。1問目で、市街化調整区域の目的は、優良農地や自然環境の保全などを図ることと答弁をいただきましたが、このまま市街化調整区域の状況を放っておくと、かえって優良農地や自然環境を失うことになるのではないかと思います。現に志賀島を歩いてみても、農地の所有者が亡くなって後継者がいないところは農地も荒れ放題になっております。私は、市街化調整区域にどんどん建物を建ててくれとは言いませんが、市街化調整区域に住む人が自然と共存できるような住宅政策や、自然を守るためにも、農業、漁業を守るということは市街化調整区域を定めた行政の責任だと思えますが、市街化調整区域の現状とまちづくりについて市長の御所見をお伺いします。

次に、診療所についてですが、2問目の答弁で、国や県の整備要綱に合わないから設置は難しいというふうなことでしたが、国の設置要件は公共交通機関で30分以上離れているというのが条件だそうです。志賀島の場合は一番遠い勝馬で28分だからだめというところなんです。こんな人口が2,200人いて、65歳以上の人が670人、高齢者率が約30%もある、そういうふうな志賀島で病院がないのに行政が放置しているということは地域医療を考えていないということでしょうか。医療は生活の根幹です。民間の診療所がなくなったらそのまま放置するのではなく、行政が適切に民を誘導するなど、何らかの対策をとるべきではないかと思いますが、御所見をお伺いいたします。

次に、バス停のベンチ設置についてですが、市長は、「聞きたかけん」と称して地域の声をお聞きになっているようですが、バス停のベンチについては志賀島、西戸崎地区の自治協議会、老人会から、行政に対して設置の要望を出そうという動きもあります。市長はこのような地元の意見に真摯に耳を傾けていただきたいと思います。もともとバスは、公共交通機関というように、自治体によっては行政サービスでやっているところもあります。バス停のベンチ設置について、高齢者福祉の観点から行政として何らかの対策をとるべきと思いますが、御所見をお伺いいたします。

次に、志賀島の振興についてですが、大阪や東京などから客人が来られたとき、市長ならその人をどこに連れて行かれるでしょうか。残念ながら、私の周りのほとんどの方が、福岡市ではなく太宰府か国立博物館を頭に思い浮かべるようです。福岡市に歴史や自然の資源が何もないのならしるべきありませんが、志賀島の金印公園や潮見公園、ほかの地域でも福岡城跡や元寇防塁、神社、仏閣などたくさんある資源を生かす切っ掛けがないように思われます。市長は常々むだなものはつくらぬといわれたいと思いますが、ある資源を生かさないことは、ある意味、むだをしていることと同じだと思います。市長が東区の勉強会のときに、志賀島の電線地中化のことを聞かれたと聞きまして、市長も志賀島の歴史や自然環境に興味を持っておられるのかなあと少し期待をしています。また、九州大分に湯布院という地域がありますが、ここは住民と行政が一緒になって、自然や温泉などの施設を有効活用して、本当に日本でも有数の温泉地域、観光地域として成功しています。私は志賀島も、温泉もありますし、近くには海の中道海浜公園やゴルフ場、マリノワールド、乗馬クラブもありますし、志賀島の海産物や特産物や自然景観や歴史資源を生かしたら、この湯布院にも負けないような地域になるんじゃないかなあというふうに思っています。

そこで質問ですが、電線の地中化を含め、志賀島の観光産業や農業、漁業の振興についての市長の御決意をお伺い

します。

次に、小学校における生徒指導上の課題と心のケアについてお伺いします。

核家族化の進展や家族と一緒に過ごす時間の減少、地域コミュニティの希薄化などにより、家庭や地域の教育力が

低下し、学校や生活の中でさまざまな問題に直面しても、周りに気軽に相談できる大人が少なく、不安を感じている子どもがふえていると思われ、子どもが安心して生活できる環境づくりがますます重要となっています。また、小学校において学級運営の混乱など、特に生徒指導上の対応を必要とする問題が発生した場合、生活補導主事がいないために、中学校に比べて支援体制づくりも難しく、中には担任が心身の疲労から病気休暇に至ってしまう場合もあると聞いております。担任が病気休暇になれば、臨時的な職員の補充はなされるということですが、時間的にも不十分なカバーとならざるを得ないのが現状であると聞いています。昨今は離婚率も高く、両親の片方だけに育てられる子どもも多くなつたと聞いています。私が生まれたころの全国の年間の離婚件数は10万件程度でしたが、ここ数年間の離婚件数は25万件から30万件の間で推移しています。また、厚生労働省の全国母子世帯等調査によると、1998年から2003年までのわずか5年間で母子世帯は28.3%も増加しています。母親のみまたは父親のみで御苦労されながらも、立派に子育てをされている方もたくさんいらっしゃるでしょうし、私も現実にはそのような御家庭を存じ上げています。しかしながら、小さな子どもにとってみれば、御両親の間にやむを得ない事情があったにせよ、大好きなお父さん、お母さんの片方が自分のもとを去っていくことはつらい現実であったでしょうし、場合によっては両親の離婚によって幼い心に重荷を背負っているケースもあることでしょう。私は子どものいじめ問題や不登校の問題の増加は、子どもの心の重荷や寂しさなどの増加と比例しているというふうに思います。現在、行政として母子家庭に対して経済的な援助はされていますが、子どもたちに対する心のケアにもぜひ手を尽くしていただきたいと思うのです。

そこで質問ですが、先ほどの御答弁では、県費教員の枠では小学校に生活補導主事を配置することは困難だということでしたが、私は小学校においても、特に生徒指導上の対応が必要になった場合には、中学校の生活補導主事と同じく、児童に向き合い、生徒指導に専念できる教員を市費を投じてでも配置し、子どもたちが安心して過ごせる環境を整えていくべきであると考えますが、御所見をお伺いし、私の質問を終わります。